

中学校保健体育授業における見学者対応に関する研究

－「学び」が保証されていない要因に着目して－

小川達也 （ 東京学芸大学教職大学院 ）

1. 目的

本研究では、中学校保健体育授業における見学者への学びが保証されていない要因の調査と、その要因を改善するための方策の検討を目的とした。

なお、本研究は、橋本ら（2020）が1988年以降体育授業における見学者対応についての研究は行われていないと述べるように、これまで置き去りにされてきた見学者対応に関する重要な知見を提供できるとも思われた。

2. 研究方法

- 1) 対象者：東京都内 N 中学校に勤務する保健体育教師 4 名
- 2) 調査時期：2021 年 11 月
- 3) 調査方法：半構造化インタビュー
- 4) 分析方法：対象者の語りを文字に起こした逐語録を基に、学びが保証されていない要因に着目し内容の分析を行った。その後、抽出した要因をカテゴリーに分類した。

3. 結果と考察

1) 学びが保証されていない要因の検討

①個々の教師の見学者対応に関する意識や指導観、指導技術に関するカテゴリーである【個人的要因】が、5 個のサブカテゴリーと 10 個の概念から作成された。また、見学者がもつ性質や見学者対応に関するデータ、教員の研修機会や職場の環境を含むカテゴリーである【環境的要因】が、3 個のサブカテゴリーと 6 個の概念から作成された。（表 1）

②概念の中でも、見学者の学びを等閑視している意識や、見学者と運動する生徒で序列をつけ、運動する生徒の指導を優先すべきだという意識があることを示す（見学者の軽視）は、授業計画を立てないことや、空いた時間があ

れば指導するなど、見学者対応の実践に大きく影響しているため、学びが保証されていない重要な要因であると推察された。

表 1 作成されたカテゴリー表

カテゴリー	サブカテゴリー	抽出された概念
個人的要因	学習内容と指導技術	学習内容の不明確さ
		見学者対応の指導技術の不足
	授業準備	見学者に関する授業計画の欠如
		見学者の実態把握の不十分さ
	見学者に対する意識	見学者の軽視
		学びを保証する対象としての認識の欠如
過去の経験	学生時代の研修機会の不足	
	自身が受けた見学者対応の経験	
環境的要因	生徒不在の見学者対応	評価のための見学者対応
		授業のサポートのための見学者対応
	見学者の性質	突発的に生じる見学者
		見学者の様々な見学理由
	研修機会やデータ	見学者に関する研修機会の少なさ
		見学者対応に関するデータの不足
職場と授業の環境	職務の多忙さ	
		全ての生徒をみる困難さ

2) 要因を改善するための方策の検討

上記に示した、結果・考察をふまえ、見学者の学びを保証していくためには、以下 3 点の方策が重要であると考えられた。

- ①教師として着任する前後での見学者に関する研修機会の充実
- ②見学者対応に関するデータの蓄積
- ③オンライン学習システムの活用

4. 結論

上記の結果から、見学者への学びが保証されていない要因と、その要因を改善するための方策を 3 点示せたことが本研究の成果である。

5. 主な参考文献

- 1) 橋本実来・内田美奈（2020）体育授業における見学者への対応に関する事例的研究 - 教育実習生に着目して - . 川崎医療福祉学会誌, 30(1) : pp. 385-391